

認知症高齢者にやさしい 住まい作り

CORPORATION 社会福祉法人 みささぎ会
FACILITY 特別養護老人ホーム大仙もずの音
POSITION グループリーダー
NAME 藤本 耕介さん



取り組みのきっかけ



暮らしの質を向上させる居室リフォーム

テーブルとイスだけの殺風景なフロア・すべて同じに見える居室が施設の課題でした。終の棲家と言える老人ホームでご利用者に心地よく生活していただくことを目的として、家庭的なフロアや一人ひとりに合わせた個性的な居室に作り変えることに取り組みました。

取り組み内容

取り組みの3つのテーマ

テーマに沿って3つの目標を設定しました。

- ①その人らしい暮らしの継続（環境の整備・掲示用のボードの設置・のれん作り）
- ②自己選択・自己実現（衣類管理の改善・余暇スペースの改善）
- ③残存機能の活用（フロアを食事スペースと余暇スペースに分ける）



取り組みの結果

個性を活かし、自由に過ごせる居心地の良い空間に

- ①飾っている写真を見て、昔を思い出され話されることが多くなった。個性に合わせた居心地の良い居室環境で暮らせるようになった。
- ②ご利用者自らが着たい洋服を選び、過ごしたい場所・やりたいことを選べるようになった。
- ③家事仕事などを行うことで、自然と身体を動かすことができた。居室から出てきてもらうことができた。

研究大会発表内容



詳しくは
コチラ



Commentator's message

全て同じに見える居室というところを、いい意味で否定しているところが素晴らしい。キーワードの「しつらえ」というところに、生活からさらに一歩進んで「暮らし」という表現がピタッと響いてくるように感じた。また、その人らしさ、自己選択、残存機能の活用を中心として取り組まれ、その背景としては、ご利用者ご本人の心身の能力や生活歴、過去にどのように過ごしてきたか、今の身の回りの環境が大きく影響しているということを、今回の発表を通して改めて確認することができました。

大阪人間科学大学 人間科学部社会福祉学科 / 秦 康宏 准教授